開山忌によせて

不思議な佛縁

佛真寺駐在開教師　池澤紫山

『楳庵白純大和尚』より

ロスの朝夕は涼しい。毎朝四時になると部屋のドアをノックしてくれる人がいる。十数棟に分かれて約百二十名の常住メンバーが暮らしているので、振鈴はこの建物まで聞こえないのである。ルームメイトに教わったヨガを数分して眠けを覚まし、身支度を整え僧伽ハウスでお茶を飲み禅堂に行く。既に数人坐っている。首座覚心和尚の逆検単、堂頭前角老師の検単が済み対坐で一炷坐り、二炷、三炷目は独参がある。堂頭老師の独参の他、先日日本での瑞世を終え、グラスマン徹玄和尚に次ぐ愛弟子であるマーゼル玄法和尚の代参、そしてベック浄光師とウィック獅心師のインタビューと、メンバーは各々自分の師に就いて、室内の調べや助言をして頂くのである。十年来坐っている人、メンバーになりたての人、合わせて百名もの青い眼の仏様達が、今日も黙々と坐っている。禅堂の二階にある開山堂には、高祖様太祖様のご尊像があり、正面に仏真寺ご開山楳庵白純大和尚のご尊影とお位牌、そして安谷白雲老師、昨年若くして遷

化された黒田本清和尚様のお位牌が、メンバー手作りの立派な須弥壇に安置され、毎日侍真の妙融尼がご洗面、献飯を修行してお仕えしている。

本山安居中に、『跳龍』誌に紹介された当地ロスアンゼルス禅センターの記事を読み、新到であった私は、米国にも禅を求める人々がいることに驚いたものでした。日本人にさえも容易に理解されない〝禅の教え〟を、どのように伝えていられるのかも興味深いことでした。しかしながら在家から宗侶となった私は得度した信州松代の長國寺での修行時代に、チェコ人の盧山さんと一緒に生活したことも手伝って、日本語が通じないからこそ、実は通じ合う世界があるのではないかという気持ちを、密かに心に抱いていたのでした。

本山修行に慣れてきた頃、大海副監院老師にご相談したところ、思いがけず横浜善光寺の黒

田武志老師にご紹介していただき、桐ヶ谷寺の黒田純夫老師のご慈慮をもって、開教師として赴任することが出来ました。

その間、ご縁があって本師秋田県松庵寺渡辺昭雄の下に嗣法いたしましたが、本師と故黒田本清和尚様は、駒澤大学の同級生であったのでした。また前角老師のご母堂様のご生家は、信州須坂の興国寺といい、私の実家から近く、堀侯の菩提寺という名刹でした。なんと現住職水野師と私は、かつて中野市民吹奏楽団で一緒に演奏をしていた仲でした。水野師のご令室は、松本市の広沢寺住職で駒澤大学の講師であられる、小笠原隆元老師の妹様です。小笠原老師は、昭和五十四年に当禅センター訪問の際、東西文化交流インスティテュートの図書館に、貴重な蔵書をご寄贈くださっております。なお、前角老師は、興国寺現東堂老僧のご本師、早川祖禅老師に就いて得度をなされたと承りました。

仏縁、宿業と申しますが、仏門に入って以来私の身の回りに現れる方々が、皆古くから何かしらのご縁があることに驚くと共に、受業師吉田興山老師の言葉を改めてかみしめるのです。「私は『始めまして』というご挨拶はしない。いつでもどこでも『お久しぶりです』という。昔からのご縁であればこそである」

今私は、智源さんというＵＣＬＡの大学院で、仏教学を専攻している居士と同室です。日本語が達者なので大助かりです。そして何といっても、天狗になりがちな私に、時々厳しいことを言ってくれる、掛け替えのない同行の善知識です。教授の善知識は言うまでもなく、真の外護の善知識に恵まれたこのご縁を無駄にせぬように、前角老師がいつもおっしゃる「ヨッコラショ、ヨッコラショ」と正精進していくことをお誓いして、ご開山楳庵白純大和尚のご鴻恩に報いんとする決意であります。　（原文のまま）